

広域交通ネットワーク特別委員会会議記録

広域交通ネットワーク特別委員長 麻生 栄作

1 日 時

令和8年3月24日（火） 午前10時05分から
午前10時50分まで

2 場 所

第3委員会室

3 出席した委員の氏名

麻生栄作、木田昇、清田哲也、今吉次郎、太田正美、三浦正臣、吉村尚久、
若山雅敏、高橋肇、澤田友広、堤栄三、末宗秀雄

4 欠席した委員の氏名

阿部長夫、後藤慎太郎、木付親次

5 出席した委員外議員の氏名

なし

6 出席した執行部関係者の職・氏名

なし

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

（1）報告書の骨子及び今後の日程について協議した。

9 その他必要な事項

なし

10 担当書記

政策調査課政策法務班	主 査	稲垣俊和
政策調査課政策法務班	主 任	三宅未紗
議事課委員会班	主 査	坂口泰弘

第9回広域交通ネットワーク特別委員会 ～広域交流・観光・産業の振興～

次第

日時：令和8年3月24日（火）予算特別委員会終了後
場所：第3委員会室

1 開 会

2 論点整理

報告書 骨子（素案）及び今後の日程について

3 その他

4 閉 会

会議の概要及び結果

麻生委員長 これより、第9回広域交通ネットワーク特別委員会を開催します。

本日は都合により、後藤委員、阿部委員、木付委員が欠席となっています。

本日は、これまでの調査結果を踏まえ、本委員会の報告書の取りまとめに向けた論点整理に入りたいと考えております。

本日お示ししている論点整理（報告書骨子素案）は、これまでの調査や議論を踏まえ、報告書に盛り込むべく主な論点や方向性を整理したものであります。

本日は、この論点整理をもとに、報告書に盛り込むべき内容や論点について、委員の皆様から御意見をいただき、今後の取りまとめに向けた整理を進めてまいりたいと考えております。

それでは、論点整理及び今後の日程について、事務局から説明をお願いします。

事務局 正副委員長と協議の上、論点整理のための資料を作成しましたので、御説明いたします。

まず、論点整理（項目案）を御覧ください。四つの付託事件について論点整理を行うため、これまでの調査結果を基に項目案を整理しております。詳細につきましては、後ほどA3の論点整理（報告書骨子素案）の資料により御説明いたします。

まず、Ⅰ東九州新幹線についてです。項目は、整備の必要性、実現に向けた取組、検討課題の3項目としております。このうち2実現に向けた取組については、（1）路線・ルート、（2）機運の醸成、（3）東九州新幹線鉄道建設促進期成会の活性化、（4）国への働きかけの4項目としております。

次に、Ⅱ豊予海峡ルートについてです。こちらは、1沿革、2県の取組、3四国との連携の3項目です。

Ⅲ広域道路ネットワークについては、1東九州自動車道、2中九州横断道路、3中津日田道路の3項目です。

Ⅳ広域交流、観光振興、産業振興については、広域交流、観光振興、産業振興の3項目としております。当付託事件は、他の三つの付託事件の整備による便益について調査とされているため、これらの便益については付託事件ごとではなく、当付託事件において整理しております。

続いて、A3の論点整理（報告書骨子素案）を御覧ください。左から付託事件、項目、その右にこれまでの調査結果の概要、一番右に、調査結果を踏まえた論点（提言骨子素案）を整理しております。それでは、順に御説明いたします。

まず、付託事件（1）東九州新幹線についてです。1. 整備の必要性については、執行部、参考人等から、「日本では地方の高速交通インフラ整備が諸外国と比べ遅れている」、また「将来世代のためにも整備が必要」との意見がありました。これらを踏まえ、論点は、「将来世代を見据え、九州東側への新幹線整備を進める必要」としております。

次に、2. 実現に向けた取組です。

まず（1）路線・ルートです。

①本県を通る三つの基本計画路線の優先順位については、委員から「東九州新幹線の早期実現が最優先」、「四国新幹線も東九州新幹線も未整備の状況で、豊予海峡新幹線という話はない」との意見がありました。これらを踏まえ、論点は、東九州新幹線の早期実現を最優先課題としております。

また、②ルートについては、委員から「4県1市が同じ方向を向くためルートを決めるべき」との意見があり、宮崎県、福岡県、北九州市からも日豊本線ルートを基本とする考え方が示されておりました。これらを踏まえ、期成会の方針である日豊本線ルートを基本としております。

次に（2）機運の醸成です。委員からは「若年層への情報発信の重要性」、参考人からは「地域住民の機運を高めることが重要」との意見があり、論点は、若年層への周知を含め、機

運を高める取組が必要としております。

次に（３）期成会の活性化です。執行部からは、「四国４県は結束して国に働きかけており、東九州との機運の差がある」との説明があり、委員からは「４県１市期成会の活性化が必要」との意見がありました。これらを踏まえ、期成会の活性化や広報活動の強化などにより、４県１市の機運を高める必要としております。

次に（４）国への働きかけです。

①新たな財源確保策については、参考人等からは、「１、４００億円以上の財政負担は受け入れがたい」、「日本の高速鉄道への投資が少ない」、「十分な予算確保の必要」との意見がありました。このため、十分な予算の継続的確保、新たな財源確保策、適切な受益者負担の在り方について国に検討を求めるとしております。

次に、②Ｂ／Ｃについては、委員から「Ｂ／Ｃを再算定すべき」、執行部からは「国に対してＢ／Ｃ算定の在り方の検討を要請」、参考人からは「経済波及効果や地域均衡は十分に評価されていない」との意見があり、論点は、国に対しＢ／Ｃ算定の在り方の検討を求めるとしてあります。

次に、３．検討課題です。委員からは、「人口流出や並行在来線の利便性低下を懸念」する意見があり、参考人等からは「新幹線は交流人口拡大の切り札」、「在来線の利便性向上も期待できるため、メリット・デメリットを整理する必要がある」といった意見がありました。このため、メリット・デメリットを整理するとともに、ストロー現象や並行在来線の利便性低下への懸念を含め、県民へ丁寧に情報発信としております。

次に、付託事件（２）豊予海峡ルートです。

１．沿革についてです。執行部からは、「下関北九州道路は、海峡横断プロジェクトの調査中止後も要望継続を背景に、事業化に向けて取組が進んでいることから、残りの五つのプロジェクトについても国に対し調査等の再開を求めていくべき」との説明がありました。一方、委員からは、「四国新幹線も東九州新幹線も未整備の状況で、豊予海峡新幹線という話はない」

「県だけが独り歩きしている」との意見がありました。また、四国経済連合会からは、「四国４県としては県庁所在地を結ぶルートを優先し、海峡部は一旦先送り」との意見がありました。これらを踏まえ、論点は、豊後伊予連絡道路の調査継続は否定しない、四国新幹線の豊予海峡区間は東九州新幹線整備に続く次の時間軸で取り組むべきとしております。

次に、付託事件（３）広域道路ネットワークです。

１．東九州自動車道については、執行部から、「課題は暫定２車線区間」、「災害時の代替確保が必要」「暫定２車線は死亡事故率が高く、安全確保のため４車線化は必須」との説明がありました。

また、２．中九州横断道路については「事業中区間の整備推進と未整備区間の早期事業化が課題」であり、「広域防災拠点を結ぶ輸送道路として必要」との説明がありました。

さらに、３．中津日田道路については「早期の全線開通に向けた予算確保が課題であり、『命をつなぐ道』として重要」との説明がありました。

これらを踏まえ、論点は、中九州横断道路及び中津日田道路の整備を早期に推進、また、東九州自動車道における暫定２車線区間の４車線化を着実に推進としています。

最後に、付託事件（４）広域交流、観光振興、産業振興です。

１．広域交流についてです。参考人等からは、「九州新幹線の事例では、移動時間の短縮により交流人口が拡大」との説明がありました。

また、２．観光振興では、執行部から「中津日田道路の整備が観光圏の拡大に寄与している」との説明があったほか、参考人等からも「新幹線ネットワークは観光振興に不可欠」との意見がありました。

さらに、３．産業振興では、執行部から「高速道路網の整備により、物流拠点の集荷エリアの拡大や沿線地域への企業立地が進展している」との説明があり、参考人等からも「新幹線整備の経済効果は想像以上に大きい」といった意見

がありました。

これらを踏まえ、論点は、高速交通ネットワークの整備は広域交流の促進に寄与し、地域の相互発展につながる可能性が示され、観光振興や産業振興にも大きな効果が期待される、このため、東九州新幹線をはじめとした広域交通ネットワーク整備が必要としています。

次いで、今後のスケジュールについて御説明します。令和8年度開催計画（案）を御覧ください。第4回定例会での報告書提出に向け、第2回定例会において骨子（案）を協議し、第3回定例会において報告書の記載内容を協議、第4回定例会において報告書案を決定したいと考えております。このため、本日は論点整理（報告書骨子素案）について、委員の皆様から御意見をいただき、その内容を踏まえ、正副委員長と相談の上、骨子案を作成し、6月の次回委員会にてお示ししたいと考えております。

麻生委員長 丁寧な説明ありがとうございました。ただいま説明がありました内容について御質問や御意見がある方は挙手をお願いします。

堤委員 今日の議論は、これで見ると、概要について書いてくんなえちゅうの入っとるけんね、特別委員会論点整理に対する意見と、これを出して議論するちゅうこと、それとも今日、一旦いろいろ出してやるちゅうこと。

麻生委員長 そのところは、今日、各委員さんが個人的に特に指摘事項とか、委員としての部分をお出してください。そして、その上で、お手元に配付しています論点整理に対する意見というのは、各会派として意見集約をして、正式に会派としての集約もその次のステップで行うということで、フォーマットをつくってくれているということでもいいんだよな。

事務局 はい。

麻生委員長 そういうことのようにあります。よろしいでしょうか。

堤委員 どうもありがとうございます、詳しく、本当ようまとめていただきました。

東九州新幹線と豊予海峡、二つをメインにして、今日、豊予海峡について記事が出ていましたけれども、整備の必要性の中の提言の骨子で、

沿線地域の発展に大きな効果をもたらしている。東九州地域は高速交通インフラが遅れているというふうなことが書かれているんだけど、実際には新幹線の駅周辺は再開発等で効果あるとしているけれども、それ以外、新幹線の駅のない地域で波及効果というのは、非常に少ないですね。つまり、二次交通、発達していませんから、だから、新幹線の駅の周りは結構発達するところはあるんだけど、それは実際には、それ以外の地域では衰退しているのではないかというふうなところの検証がまだまだされていないのかな。

もう一つ、あと、将来世代を見据えた九州東側の新幹線整備を進める必要性についても、論点、提言骨子については、やっぱり世界では高速鉄道については広大な平原とか国境をまたぐような整備であって、日本の場合はそんなに大きな土地ではないんですよ。ですから、今の大分でいえば、30分運行のソニックとか、鉄道の高速化で十分であると、私は論点的にはそういうふうに思いました。

二つ目の実現に向けての取組については、路線・ルート、3基本計画路線の優先順位、提言骨子の中には早期、最優先課題にするということになっているけれども、これが一番言いたいのだけれども、早期実現ありきの方向性は時期尚早であると。やっぱり県民の多くの合意形成に至っていないというのが、私の考え。最優先課題といいながら、この前J R九州の支店長が言っていましたけれども、J R九州の考え方が全く出されていない。彼らもお金の負担はあるわけだから、そういう点でJ R九州の方向性が決まっていないし、新幹線営業の採算性から見ても、この東九州新幹線ルートってどうなんだというふうな問題点があるというふうに、そういう論点が抜けていると思います。

あと、実現に向けた取組の中で、路線・ルート等が、日豊本線は基本、そこに書いとるんだけど、日豊本線のルートにおける効果、またマイナスの部分などがほとんど議論されていない。これが通った方がええんではないかという程度の議論であって、方向性をズームインし

ていくというのは、まだまだ時期尚早じゃないかと思います。

二つ目の機運の醸成、これ若者の周知だとか、地域住民の、経済界の理解と機運を高める取組としているけれども、新幹線については、必要性については、様々な情報を提供をする。若者層だけじゃなくて、やっぱり現役を引退した後、つまり、買物難民の方々、地域に住む高齢者、そういう方々、つまり、毎日、列車とかバスとか、そういう交通手段を使う方々の意見も幅広く聞くべきである、こういうふうな点が抜けている。

あと、実現に向けた取組の中で、期成会の活性化の問題については、広報活動の強化等が提言骨子に書かれているけれども、期成会のシンポジウム、俺も何回か参加したけれども、推進側の理論が多く取り上げられて、公平な判断とか、そういう思考することが不可能ということを感じます。

二つ目の実現に向けた取組で、国への働きかけとか財源、B/C等々については、これまでも新幹線建設でも、リニアとかね、当初計画の予算を大きく超えているというのが現実なんだよね。そこまで考えて事業予算組んでいないことも問題がある。今日も、こういう会議が1.5兆円かな、というような報告をされとったけれども、あれも今現状の形。何十年か先になれば、どういう状況になるかというのは分からんわけだから、そういう点で事業予算をどうするかというところも具体的な論議もないでしょう。

あと、工事の難航とか、地域の反発とか、いろんな長期の工事に対する考え方も、地域住民をどういう風にするかということ、など、これ、今から10年前の話だけど、新幹線建設の場合には1キロメートル当たり70億円と言われてたんよね、その当時。それが福岡県から鹿児島県でいうと462キロメートルあるのかな。それ、単純計算すると、10年前でも3兆3千億円かかるのかな。その、今現在、もっと物価も上がっているし、今、計算し直しても莫大な金額なんだろうけれども、そういう風な予算の計画性もなく、推進だけで将来負担など、ど

うなるかというの考えとらんと、そういう点ではやっぱり県民も納得しないんじゃないかと思います。

あと、デメリット、メリット、これもずっと俺が言ってきたけれども、在来線の疲弊の問題、あと料金の負担、乗客数の減少、赤字経営、そもそも論点、提言骨子の中の先生の話の中で黒字になったところもあるというふうに書いているけれども、肥薩おれんじ線だとか、しなの鉄道とか、えちごトキめき鉄道というのは、乗客数を大きく減少しているんですね、三セクとなっているけれども。これで、赤字になっている、開業後の20年間、赤字っていうふうな、そういうところもあるんだ。だから、日豊本線等々が在来線になった場合、そういうところもどうなる、今でも赤字だから、乗員の削減、無人化を進めているようなJRが、この並行在来線はね、さらなる疲弊に落ち込んでしまうというようなことも火を見るより明らか、今でも疲弊している訳だからね。そういうふうなことがほとんど語られていない。

あと、人口減少社会で、期成会が作ったパンフレットを見ると、人口趨勢状況、つまり、人口増が起きるちゅうふうな計算を求めたら、交流人口も含めて計算しているんだけど、そうじゃなくて、実際の、今現在は107万人か、この前、速報値がね。つまり大分県も減少している、宮崎県はもっとひどい状況やろ。そういう中で、本当交流人口が増えるかというのは、非常に大きな危惧がある。そういうところも含めて、議論がされとらんから、そういう点でこの東九州新幹線を今どうこうするとか、提言を出すということは、非常に大きな問題があるし、時期尚早であるというふうな点からも強く訴えたいし、豊予海峡ルートも言語道断、こんなものを今現在、大分県として推進するという方向性を出すべきじゃないというふうに思う。

ちょっと長くなったけれども。

麻生委員長 ほかに。

末宗委員 大方はまあようできとると思うんだけど、ちょっと聞きたいんだけど、広域道路ネットワーク、あまり議論してないん

じゃけど、これ、もともと県から、議員から運動しよったようになかった、この三つじゃなくて、宇佐国見があるんよ。宇佐国見のことに触れてないし、どういう位置付けなっちゃうか、今、よう分からんけれども。

それと、もう1個、観光振興、中津日田道路は沿線観光地の周遊性向上と別府・由布への観光圏拡大に寄与、この分で、中津日田の本耶馬溪のインターから国道500号、別府市に行く道路があるんよ。あれがバスも通らないウサギ道になっていて、その分があと3キロメートルぐらい残っているんだろうけれども、その分を整備すれば、中津市の耶馬溪から別府市までの一直線なんよ。由布市も近いんだけど、それをちょっと入れたらいいなと思って提案しますわ。

麻生委員長 当委員会はまだ当初から申し上げましたとおり、広域交通ネットワーク特別委員会という形で、例えば常任委員会に取り上げて取り組むという部分とちょっと区別をしてちょうだいっていうようなところでスタートしたかと思うんで、今、抜け落ちているのは、さきほど話のあった、一応、所管事項として決定している東九州自動車道、中九州横断自動車道、中津日田道路、そことつなぐ構想道路、さきほど末宗委員のおっしゃった宇佐国見と同じように、例えば宇佐国見は中津日田の影響とか東九州のアクセスという形の広域交通という中で抜けているのかもしれないし、構想道路の部分について、また、それぞれの会派で構想道路の部分、また、明確に記載を入れてほしい部分、入れていただければと思います。

末宗委員 もうここに書きちょうね。

麻生委員長 3番の広域道路ネットワークについては、今日の、昨日の知事の発表の中にもあったような豊予海峡ルートというのは、あれは豊後伊予構想道路、その実現に伴う形で、なぜか土木建築じゃなくて、総合交通のほうで調査研究、予算を計上して、その結果報告ということになっていますけれども、そうすると、中九州横断道路の宮河内インターと大在港の構想道路というのがあるんですけれども、それと

佐賀関の接道、どっちを優先するのかというような話も、議論が、論点絞っていく必要があろうかと思うんで、そういった部分もそれぞれの会派の中でも取りまとめをして、意見集約していただければと思います。

ほかに何か指摘すべき事項というのございますでしょうか。

清田委員 高松市に皆さんで調査行ったときに、駅ができるであろう沿線自治体に県が予算を出して、じゃあ、それぞれ駅はどこがいいですかっていう調査までやってたという事例がありました。あれを聞いて、非常にその時点で大分県負けているんですけれども、ほんで、図らずもさきほど皆さんが申し上げている豊予海峡の調査が出ましたっていう報道が昨日からあっていますが、あれも同じパシフィックコンサルタンツだったと思います、そういうのが得意な調査会社ですが。豊予の、しかも、片側1車線のトンネルでっていう想定調査やっていて、そもそもこの時代に片側1車線、あんな長大トンネルなんか調査して意味あんのか、これ個人的なあれですけれども、そこに調査費用かけるんだったら、しかも、同じパシコンに払うんだったら、東九州新幹線沿線自治体に、高松市、香川県がやったように、県が1千万ずつでも予算あげて、それぞれのまちで若者の意見を集約しながら、ちょっと夢のある話も織り交ぜながら、もし、じゃあ、佐伯市に新幹線の駅つくるんだったら、どこがいいのとか、そういうこともやってしかるべき時期だと思います。だから、50年できないんだろうなと思いますし。相変わらず、だから、結局、何が言いたいのかといいますと、豊予と東九州、どっちつかずで、結局、知事はウエイトが豊予に乗っているんだろうなっていうところで、正にこの委員会の提言で少しそこを改めてもらうような提言書になればいいと思っていますので、ぜひ香川県のあの取組という部分を指摘しながら、かなり周回遅れぐらいで、東九州、特に大分県の取組、遅れていますという指摘も入れていただきたいと私は思いますが、そういう意見です。

麻生委員長 ありがとうございます。今の御指

摘なり、さきほどの堤委員の御指摘なり、要は時間軸を明確にしつつ、構想をプラン化していく部分についてどうあるべきかっていう部分、しっかりと道筋っていうものをどんどん整理していただければなと思っております。

ほかに、まずは委員の皆さん方で思いを。

今吉委員 この1ページ目の実現に向けた取組で、四国新幹線は、国会議員、知事、経済界が一体となった大会開催と、そういうふう書いておった、そういうふうにならされているんですけれども、東九州新幹線においては、自治体や経済界、県議会等って、国会議員が入っていないんです。あんまり国会議員をもっと盛り立てるということはやらないんでしょうか。

「入れるようにしましょう」と言う者あり]

麻生委員長 提言としてね。

今吉委員 国会議員同士が、私も、宮崎県、大分県、福岡県でも、もっと連携をさせるようにしないと、国もなかなか動かないかなと。

麻生委員長 そういった部分もひっくるめて、それぞれの会派、政党の中での動き、並びに、これは特別委員会ですから、提言として取りまとめをするということでありまして、両にらみでやっていかないとなかなかそこまでは至らないということも前提に含めて、そういう今の指摘事項も盛り込んだほうがどうかという御意見として受け止めたいと思います。

ほかに。

高橋委員 全体的にはよくできて、いいなと思うんですけれども、1点だけ、さっき堤委員からもありましたけれども、いわゆる並行在来線ですね。佐賀県が財政負担の割には並行在来線が廃れていくと、そういうメリット、デメリットのほうが大きいということで、なかなか先へ進まない。

それから、いろんな調査では、逆に黒字になっているところもあるといいながら、そうではないところもかなりあると思うので、そこら辺の内容を調査の結果、新幹線が通ったところの並行在来線のそれぞれの市町村、地域が現状としてどうなって、今後どういう見通しになっ

ていくかというようなところも是非盛り込んだ上で判断ができる、そういうものにしていただければと思います。お願いいたします。

麻生委員長 ほかに。よろしいですか。

吉村委員 委員会に参加させてもらっていますけれども、機運の醸成、さきほど清田委員言われた部分と重なる部分があるんですけれども、高校生や企業等にアンケートを取られたのがあったですね。あるんですけれども、じゃあ、地元の私、中津市でこの新幹線、東九州新幹線について機運が盛り上がってきているかとか、よく話題に出るかという、ほぼほぼそういうことはなくて、地域、県の説明等の会があったときにはそれなりの意見が出されてきましたけれども、そして、一時期は久大ルートか日豊ルートかみたいところで議会でも議論にもなったりもしてきたんですけれども、この委員会をずっと継続してきていますけれども、じゃあ、東九州新幹線について、機運が盛り上がっているかという、なかなかそうは思っていない。でも、何か、僕は東九州新幹線に対して全く反対はないわけなんですけれども、でも、この辺のところだけで県と議会とで、また経済界、一部かもしれないんですけれども、それ以外のところにこういう話がほとんど広がっていないということが、そういう意味で、さきほど高松市の話とかもありましたけれども、その辺の仕掛けがやっぱりいるだろうというふうに思うんですね、もっと。それはアンケート調査なり、またもっと機運を盛り上げていくような仕掛けなりというような部分、この辺のところをしっかりと提言の中に入れていくべきかなというふうに思っています。

麻生委員長 ありがとうございます。ただいまの指摘は、機運醸成含めて、県内もエリア広うございますので、地域格差、当然あろうかと思えます。そういったところについても、各会派でもそういった御意見があれば、意見集約していただければ幸いです。

ほかに。ございますか。

若山委員 みんな言いよるけん、私も発言しますけれども、私も提言していく部分、この部分

について、基本的には賛成の立場で。ただ、堤委員が言っていた、いろんな部分がまだまだ課題が、掘り起こせば、掘り起こすと出てくるといふ部分も含めて、それがための機運醸成で、県民への説明がまだまだ今から取り組んでいたきたい部分だと思いますけれども、ただ、それが済んでからやってしまうということになると、また時間がかかって、前回、全ての基本計画の実施計画までもっていくという、そういった全国的な機運の部分に乗かって、やっぱりやるべき部分はきちっと、方向性含めてやること。ただし、そこに、実施に向けた丁寧な説明を行いながら、やっぱり課題を掘り起こしながら、私、宇佐市なんですけれども、やっぱり宇佐市は、さっき吉村委員が言ったように、中津市よりもっと、宇佐市ならもう多分駅はできないだろうなという部分から、そういった新幹線云々の話にもなってませんので、そういった部分、そういったところも含めてやっぱり機運醸成。じゃあ、何が課題なのかという部分が、今から含めてじっくりやりながら、ただ、働きかけ、方向性としてはこういった部分、きちっと議会として打ち出して県に提言すべきだといふふうには思っております。

麻生委員長 ただいまの意見にもありましたように、新幹線一つ取っても、基本計画路線3本、大分県を通るもの、あるわけでありますけれども、それを、その中の優先順位をどうするかという部分について、当然、それに4番にあります広域交流とか観光振興とか産業振興につながる部分を含めたルート選定のありようかという部分も、参考人を招致しながら議論してきた結果があるかと思ひますんで、そういった視点もどうやって表現していくかというのがなかなかこれ、難しいところなんで、またお知恵を皆さんからお出しただけならば幸いじゃないかなと思ひています。並行在来線も含めてといふような部分であります。

ほかにございませんか。

吉村委員 すみません、ちょっと確認したかったです。すみません、総決起大会等もありましたけれども、あのときに、国として法定調査で

はない、ケーススタディーとして選ばれるかどうかとかいふ、これがいつ頃だったのかということと、これに選ばれるかどうかによっては随分ここの数字の書きぶりちゅうのは、また、勢いっちゃうんか、変わってくるのかなと思ひんですけれど、その辺どうなっていたんですか。

麻生委員長 執行部がおらんけん、分からんなあ。

事務局 私が聞いている範囲では、来年度とは聞いていますけれども、まだ時期とかは未定ということですので、執行部の方とも連携を取りながら、この中に盛り込める時期であれば、盛り込んでいきたいと思ひています。

麻生委員長 恐らく骨太の方針に、毎年6月の国への要望事項、そして、7月に骨太の方針、その辺りで出てくるのかなという、大体スケジュール感だろうと思ひますんで、その様子も見極めながらやっていく必要があろうかなと思ひています。そういうことでいいですか。

堤委員 去年の骨太方針の中で、高速鉄道について基本路線も含めた検討していくと、それ多分ほとんど没になっていると思ひます、さっきの話は。だから、それは別に新幹線ありきじゃない。高速鉄道だから、今の、例えば在来線の高速化とか、そういうのを含めて、全体的なやつをするよというふうには、俺はあれを文章の中では捉えたんやけれどもね。それを基本路線、整備新幹線に格上げをするといふところに果たして行くかどうかといふのは、これ全然、ゼロのような状況なんやな。そこをあまり期待すると、大変じゃねえかえと思ひております。そういう感想です。

麻生委員長 澤田委員いいですか。

澤田委員 はい。

麻生委員長 特に何か。

澤田委員 もう、はい、さきほどの、同じ意見です。

麻生委員長 皆さん方からとりあえず、今、そういう形で御意見をいただきました。問題は、前文をどうするかといふようなことも出てこようかと思ひますし、今、国の動きも、動向も注視しながら、その上で、昨日の発表のあった、

非常に問題が多いかもしれませんが、まあいったことに対しての御意見、予算を認めるかどうかもあるかもしれませんが、日経新聞では、橋梁の調査の調査委託費なんかも計上するみたいなことも記載があって、総務企画委員会で説明があって、しっかり審議はされたのかどうかちょっと気がかりではありますが、いずれにしても、当委員会としては、広域交通ネットワーク特別委員会で提言をするという状況の中で、あまり先走らないようなことは求めているとおきたいということで、昨日ちょっと交通政策企画課にそのような申入れはさせていただいているところであります。

大事なことはやっぱり時間軸、県民の皆さんはああいった新聞報道なんかがありますと、テレビ報道あると、もう即、決まって、もう即できるもんやというような勘違いをされているわけでありまして、無責任な議論がネット上でもばんばん出ているといった、多分東京の方とかよその方からすると、それでできると便利いいねってというような形なんでしょうけど、これから基本計画に仮に格上げされて、環境アセスを行って、着工までにそれから10年かかってとか、さらに、着工から何年かかるのという現実を見据えた時間軸をちゃんと丁寧に説明しないことには、誤解ばかり生んで、混乱するばかりということにならないような提言にしていければなと思っていますんで、そういう意味で、今日、事務局のほうでこれまでの議論を踏まえた整理をしていただいているのを参考に、各党派、政党的な皆さんでそれぞれの、中央の、いわゆる国の動向もそれぞれのお立場で確認をしていただきながら、大分県として、やっぱり県民にとってよりよい方向に行くことが大事だろうと思うんで、その上で論点を整理して、御意見を、意見集約をして、このフォーマットに取りまとめをしていただいて、それを参考に、当初からこの会を、特別委員会をスタートした時点から、常任委員会ではない、特別委員会である。しかも、長期的な内容になるんで大変難しいということも申し上げてきた中で、我々の任期は4年、次の任期、知事の任期も4年、次の任期までで

もまだ長期総合計画の目標時期と違うわけですよ。長計でも10年といったことを踏まえて、長計あるいは各プラン、それに盛り込める、あるいは形になるために、今、何をすべきかということになるかと思うんで、そこも踏まえた提言書にしていかなければならないと思っておりますので、是非ともそういう部分で、それぞれの会派、責任を持って会派で取りまとめをしていただければと思います。

まず、自民党さん、三浦委員の方で会派の取りまとめをしてもらってよろしいでしょうか。

三浦委員 はい、分かりました。

麻生委員長 県民クラブさんは、副委員長のほうでお願いします。

もう堤委員は共産党さんお願いします。

末宗委員のところは、末宗委員ということでいいですね。また、この提出を。

あと、公明党さん、澤田委員。

あと、無所属会派はどうなるのかな、それぞれ、あれにも行くんやな。じゃあ、この資料を提示して、事務局の方から意見を求めるということでもよろしいでしょうか。

ほかに何か御意見ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

麻生委員長 さきほど来言っておりますように、まず、新幹線、東九州新幹線については3本の基本計画、九州横断新幹線、熊本とつなぐ分とかいうの、全く議論もされていないんで、その取扱いについてもちょっと気がかりであります。それから、豊予海峡ルートについては、四国新幹線の基本計画路線であることと、構想道路、豊後伊予構想道路との関係、新幹線と、トンネルにしても橋にしても、新幹線と道路、両方議論とか構想出ているんかと思ったら、昨日の発表では全くそういったことも、研究すら、コンサルの報告すら出てきていないというような問題もあろうかと思えます。また、広域道路ネットワークについては、今申し上げたような構想道路、さきほど指摘のあった宇佐国見道路の構想道路とか、ほかにももしこの三つの高速道路との接道の中での構想道路というので掲げべき案件があれば、また提出していただければと

思います。

そんなことでようございますでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

それでは、皆様方からの御意見を踏まえ、骨子案の作成作業を進めさせていただきます。

なお、本日提出された意見以外にもお気づきの点があれば、3月31日までに、本日、これは時間を事務局のほうで区切らないとなかなか進まないということで、3月31日までと書いていますが、それぞれの会派の中でも御事情もあろうかと思ひますんで、できるだけ早めにとということで、別紙様式①、これ事務局まで御提出いただきますようお願い申し上げます。

また、各会派において、各付託案件につき提言すべきと考えられる御意見を集約していただきたいと思ひます。これは4月30日まで。

事務局 はい、会派の分はお時間かかると思つて1か月後にしております。

麻生委員長 4月30日木曜日までに、本日配付しております別紙様式②により事務局まで御提出をください。

①は委員の皆さんね、②は会派ということのようであります。

細部については、委員長に御一任願ひます。

ようございますでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

麻生委員長 次回委員会は、事務局から説明のあったとおり、第2回定例会中に報告書の骨子（素案）について協議したいと思ひますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

麻生委員長 ついては、昨日の発表等々についても執行部からも丁寧な説明を求めたいと思ひますが、いかがでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

麻生委員長 じゃあ、それも踏まえてやりたいと思ひます。詳細な日程については、後日御連絡を申し上げます。

以上で本日の委員会は終わりますが、この際、何かございますでしょうか。ようございませうか。

〔「はい」と言う者あり〕

麻生委員長 以上で本日の委員会を終了します。

次回の開会については、改めて事務局より連絡させます。お疲れ様でした。